



ネック調整

ネックには弦の張力がかかっています。チューニングの状態や弦のゲージを変更したときだけでなく、温度や湿度の変化によっても反り具合が微妙に変化します。そのためネックにはアジャストロッドが内蔵されており、反り具合を微調整することができます。

正確にチューニングを行い、演奏時の状態にギターを持って、(Fig. 1)のように1弦の1フレットと、ネックとボディの接合部分にもっとも近いフレットを同時に押さえた状態(1フレット部にカポタストを装着すると便利です)で、8フレット部での弦とフレットの隙間を測ります。同様に低音弦側(6弦側)でも同じ測定を行い、それぞれの間隔を0.3~0.5mm(わずかな順反りの状態)に調整します。ネックの形状や、ネックとボディのジョイント方法によって症状はさまざまですが、弦高が高い、高音部の弦ビレ、イントネーションが合いにくいなどの症状が発生する場合は、ネックが順反り(Fig. 2 A)しすぎている可能性があります。この隙間が大きくなります。弦高が低い、低音部の弦ビレや音づまりなどの症状が発生する場合は、ネックが逆反り(Fig. 2 B)状態になっている可能性があります。この隙間が小さくなります。見た目だけでなく、症状と合わせて判断し、調整することが必要です。アジャストナットはネックのヘッド側に取り付けられています。ギターに付属の六角レンチ、またはソケットレンチを使用して、逆反り方向に曲げたい場合はアジャストナットを右方向(Fig. 3 C)に締め込み、順反り方向に曲げたい場合は左方向(Fig. 3 D)に緩めます。1/4回転ずつを目安に、少しずつチューニングと調整を繰り返してください。

⚠️ ご注意

ネックの調整には十分な注意が必要です。アジャストナットが上手く回らないときや正しく調整できない場合は、無理な調整は避け、お買い求めになった楽器店か弊社にご相談ください。

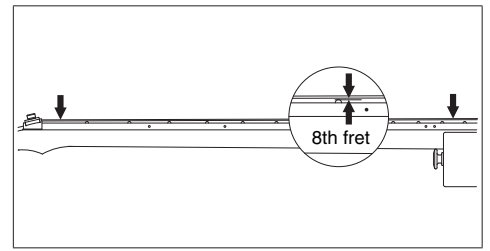


Fig. 1

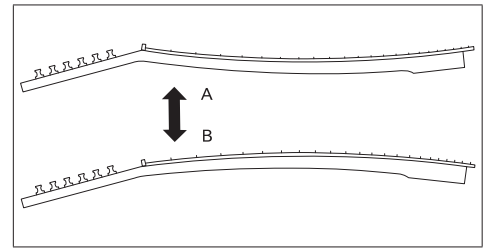


Fig. 2

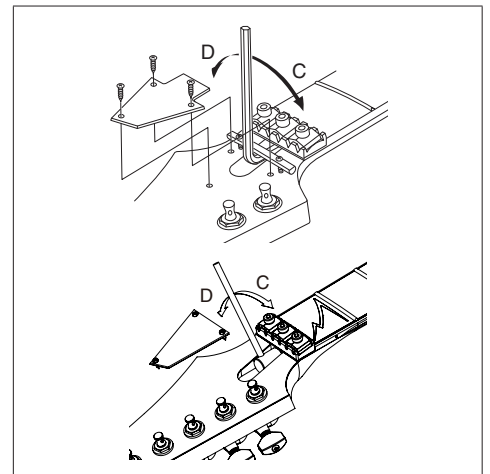


Fig. 3



ピックアップ

ピックアップの高さを調整することで音量や音質が微調整できます。プラスドライバーでピックアップ両側のアジャストスクリュー(Fig. 4 E)を調整し、最終フレットを押さえた状態でピックアップまたはポールピースと弦のすき間が、2~5mm程度になる状態が一般的ですが、ピックアップの種類だけでなく、演奏形態やアンプの特性によっても異なりますので、実際に音を確認しながら調整してください。ポールピースの高さが調整できるタイプのピックアップは、各弦の音量バランスを補正することができます(調整範囲には限りがありますのでご注意ください)。ポールピースのタイプによって、六角レンチを使用するもの(Fig. 4 F)と、マイナスドライバーを使用するものがありますので、ピックアップに合った工具をご使用ください。

ピックアップと弦の距離が近いほど音量が増えますが、近すぎると音ワレやピックアップの磁力による弦ビレの原因になります。逆に距離が遠いほどひずみの少ないクリアな音質になりますが、高域が減少したり音量が低下します。

Ibanezのアクティブピックアップ「LZ」シリーズは、搭載モデルに合わせてピックアップの特性やイコライザーのバランスが調整されており、ギターに搭載されているピックアップ及びイコライザーの組み合わせで正しく動作するように設計されています。その他の組み合わせでは使用できませんので、別のモデルで使用されているLZピックアップとの併用や、他社アクティブピックアップとの併用はしないでください。イコライザーも同様です。

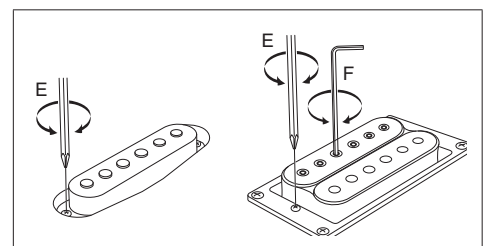


Fig. 4



バッテリー

プリアンプやイコライザーなどを搭載し、バッテリーを必要とするギターは、音量が小さくなる、音が歪むなど機能が低下した場合にバッテリー交換が必要です。バッテリーはバッテリーボックスあるいはコントロールキャビティの内部に収納されています（バッテリー搭載位置は機種によって異なります）。006P(9V)を使用するモデルと、単三形(1.5V)を使用するモデルとがあります。バッテリーを交換するときは向きをよく確認し、正しい向きでバッテリーボックスあるいはコントロールキャビティに収めて使用してください。二つのバッテリーが必要なギターは、新しいバッテリーと古いバッテリー、また、アルカリバッテリーとマンガンバッテリーを同時に使用しないでください。また、搭載されているものと異なる電圧、形状のものは使用しないでください。

バッテリーを必要とするギターは、出力ジャックが電源スイッチを兼ねており、出力ジャックにプラグを差し込むことで電源がオンになります。バッテリーの液漏れ、消耗を防ぐために、長時間で使用にならないときは、ギターからプラグを抜いて保管してください。プラグを差し込んだときにアンプなどの機器にダメージを与えるのを防ぐために、接続する機器は電源を切った状態、またはボリュームを絞った状態で接続してください。

⚠️ ご注意

本体に付属しているバッテリーはテスト用となります。



イントネーション(弦長)調整

ギターのフレット位置は、ナットからブリッジまでの距離(スケール)を基準に、一定の条件化で正しい音階が得られるよう計算されています。しかし、弦の太さやネックの状態、またチューニングの違い等ギターが使用される条件は多種多様であり、そこから生じる微妙な音程の狂いを補正する為、弦の長さを微調整(イントネーション調整)する必要があります。新しい弦に交換したときやネックの調整を行った後には、イントネーション調整を行うようにしてください。

ネックや弦高等各部の調整を終えた後、正確にチューニングを行います(チューニングメーターの使用をお勧めします)。演奏時の状態にギターを持って、各弦の12フレットを押さえたときの音と、12フレット上でのハーモニクス音を比較します。12フレット上でのハーモニクス音を基準として、12フレットを押さえた音の音程が低い場合、ブリッジサドルを前方(Fig. 5 G)へ移動させて弦長を短くします。反対に12フレットを押さえた音の音程が高い場合は、ブリッジサドルを後方(Fig. 5 H)へ移動させて弦長を長くします。ブリッジの種類によって調整方法が異なりますので、各ブリッジのマニュアルを参照の上調整を行ってください。

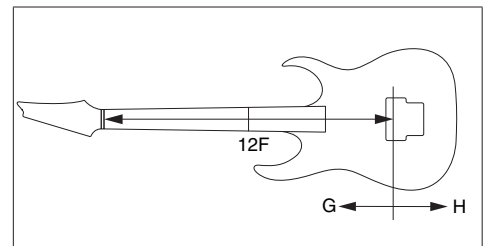


Fig. 5

⚠️ ご注意

サドルを大幅に後退させる場合は弦が切れる可能性がありますので、大幅な調整を必要とする場合には必ず弦を緩めてからサドルの調整を行ってください。

